

認定心理士の会から

「つながり」を深める活動をめざして

2018年4月、認定心理士の会が発足して3年目を迎えました。本会へ入会する認定心理士がますます増えており、幹事の一人として嬉しく感じています。一方で節目となる重要な時期であるような気もしており、今、改めて本会設立時の発起人たちの思いに立ち返りたいと思います。それは、認定心理士一人ひとりが「この会を利用して認定心理士間のネットワークを作っていたら、そのつながりを軸に様々な活動を展開してほしい」というものでした。

これまでの2年間を振り返ると、様々なイベント開催やニューズレター発行、各地方支部会設立等々、よくもまあこの数年で色々と、とも思いはします。また前号で記したとおり、学会本体のご尽力で本会運営委員会が学会内常置委員会として設立しました。これによって本会と学会との結びつきが強くなり、この3年目からは金銭的にも物理的にも本会の活動を展開しや

すくなりました。でもまだまだこれからです。

極論ですが、本会幹事会や運営委員会は完全な裏方になれることが目標かもしれません。我々認定心理士一人ひとりが、地域や職域、学びたいこと（単に気が合うということでも構わないと思います）などをもとにつながり、そのつながりの中で生じる「こんなことをしたい」を幹事会へ伝えて、運営委員会が調整する。そんな状況こそが目指すべきところだと思います。

この3年目は、認定心理士同士がつながる機会へ参加しやすくなるように調整を試みています。具体的には、各地方や全国の企画を別時期にしたり、それで空いた月には「Net de 交流！認定心理士」を開催したりです。ご参加のうえ是非とも「つながり」を深めていただき、「次の地方支部会企画（Net de 交流！）では、こんなことを！」など、ご提案いただきたく存じます。

（認定心理士の会幹事 田中芳幸）

若手の会から

立ち上げの回想録

今からちょうど5年前。当時、筑波大学の監事であり、日本心理学会の常務理事でいらした内田伸子先生に、若手が縦横でつながれる機会がほしいと相談させていただいたところから、若手の会は始まりました。同年に開催された、若手20名の参加があった第77回大会の発足式から5年足らず。気がつけば、幹事8名、メンバーは本稿執筆時点で160名を超える大所帯へと発展しました。

この3月には、常務理事会と若手の会幹事会をつなぐ「若手の会委員会」を立ち上げていただくに至り、日本心理学会の正式な委員会の一つに「若手」の文字が入ることになりました。一緒に会の立ち上げを行ってきた元共同代表の小川健二さんとは、どうすれば若手の役に立てるのか、若手が心理学界に貢献できるのかを常に話し合うと同時に、次世代への引き継ぎをス

ムースに行う方法も模索してきました。そして、2017年度大会のワンショット発表会で発表する若手や、それを仕切る若い世代の幹事たちに頼もしさを感じ、共同代表からの引退を決意しました。自ら動き出すことで思い描く未来に一步近づけることを、全身で感じ、全身で学んだ5年間でした。

多くの方のお力添えなしには、若手の会は発展し続けることはできませんでした。この場をお借りして、多大なるお力添えやご支援をくださった皆様に、心より御礼申し上げます。そして、今後は若手の会とは別のところからになりますが、将来を担う若手たちを応援していければと思っています。若手の皆さんには、自分を信じる勇気を持ち、自ら行動したり発信したりする元気をぜひ発揮していただければと思います！ 今後とも若手の会をよろしくお願ひいたします。

（若手の会前共同代表 鈴木華子）